

先端医療から福祉まで「生きる」を応援します

恵 Keiju 寿

Vol.128
2026年
1月号

第5回 日本サービス大賞 地方創生大臣賞 受賞

2024年1月1日能登半島地震 災害でも医療を止めないレジリエンス力



Special Feature

新年のご挨拶
日本サービス大賞

新年のご挨拶と 日本サービス大賞 受賞にあたって

けいじゅヘルスケアシステム理事長

神野 正博

新年あけましておめでとうございます。

能登半島地震から丸2年が経過しました。当グループでは、残念ながら再建を断念せざるを得なかった施設もありましたが、多くの皆さまのご支援と職員の献身により、復旧の歩みは着実に進んでおります。現在、グループ全体としての医療・介護・福祉サービス提供量は震災前を上回る水準に達し、地域の「暮らしを支える力」を取り戻しつつあります。

しかし能登地域全体を見渡すと、インフラ復旧の遅れ、人口流出の加速など、依然として厳しい現実が横たわっています。復興のグランドデザインのもと、一日も早い地域再生を心から願っています。

こうした時期だからこそ、私たちは「少ない人数でも、ゆとりをもって高い品質の医療・介護・福祉を提供する」ことを実現しなければなりません。それは地域の皆さまにとっても、病院にとっても、そして職員にとっても持続可能で幸福な姿です。そのために、私たちは一層のイノベーションを進め、労働生産性の向上に取り組んでまいります。

昨年12月9日、「第5回 日本サービス大賞」において、当法人の取り組みが「地方創生大臣賞」を受賞しました。審査員からは、能登半島地震において95日間の断水下でも医療を止めなかった当院の実践が、

「災害時医療介護サービスと呼ぶべき貴重な成功事例」

「国土強靱化に資するモデル」

として高く評価されました。

この受賞は、被災しながらも地域を守り抜いた職員一人ひとり、そして全国から寄せられた温かいご支援によって得られたものです。また、この経験を風化させず、全国の医療・介護現場に役立つ知見として発信し続けることも、私たちに与えられた重要な使命であると考えています。

本年も、当グループは「地域で面倒見の良い病院、介護・福祉施設」として、皆さまの暮らしに寄り添い続けます。震災からの復興の歩みを止めることなく、地域の安心と信頼を守るために、挑戦を続けてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

けいじゅヘルスケアシステム 2025年の主な出来事

4月

MAIを活用した
MAAS×介護送迎サービス開始

5月

第26回日本地震構造協会
普及賞受賞

6月

神野 正博 理事長
全日本病院協会会長就任

7月

世界初
HUAWEI製スマートウォッチを
使用した入院患者向け実証試験開始

8月

介護職員の働きやすい職場環境づくり
厚生労働大臣表彰奨励賞受賞

9月

けいじゅフェスティバル2025開催

10月

来・入院患者向けAIバートナー
「ユビ」の実証実験開始

11月

AIによる画像読影実証実験開始

12月

第5回日本サービス大賞
地方創生大臣賞受賞



公益財団法人 日本生産性本部
サービス産業生産性協議会

2025.12.09



応募総数 768 件 地方創生大臣賞 受賞

第5回 日本サービス大賞において、恵寿の震災に関する取り組みが、「地方創生大臣賞」を受賞いたしました。2017年の初受賞に続き、2度目の受賞となります。

今回の取り組みの詳しい内容と、審査員から高く評価されたポイントをご紹介します。



日本サービス大賞とは

革新的なサービスを表彰する 日本最高峰の制度

サービス産業生産性協議会が主催し、内閣総理大臣賞をはじめとする各大臣賞を授与する、日本のサービス業界における最高位の表彰制度です。「地方創生大臣賞」は、地域経済や社会の活性化に大きく貢献したモデルに贈られる特別な賞です。

第5回 日本サービス大賞において、恵寿総合病院の
『2024年1月1日能登半島地震 災害でも医療を止めないレジリエンス力』が

地方創生大臣賞を受賞しました

2024年1月1日能登半島地震

災害でも医療を止めない レジリエンス力

能登全域の病院が止まる中、唯一全機能が稼働した「砦」

元日を襲った災害は、能登地域全域に甚大な被害をもたらしました。

被災した地域の公立病院が機能を制限される中、

恵寿総合病院は免震構造と迅速なライフラインの仮復旧により唯一平時と変わらぬ医療体制を維持し、

地域医療の「最後の砦」としての責務を果たしました。

発災直後の初動 患者を守り抜いた7時間の軌跡



令和6年1月1日 16:10

能登半島地震発災

地震発生直後、電力は即座に予備線へ切り替わり、院内の通電を維持。



16:32

透析治療の安全確保

発災からわずか22分で治療中の透析患者全員の安全な離脱を完了。



17:30

地域住民への支援を開始

外来スペースを開放し、院内に避難された近隣住民約200名へ



17:50

患者113名の移送を開始

耐震構造から免震構造の建物へ、エレベーターが停止する中職員連携による人力での搬送を開始。



18:00

井戸水への切替で医療再開

能登地区全体の断水を確認後、速やかに本館の水源を井水に切替え手術室を含む医療機能を維持。



23:45

免震棟への移動完了

すべての入院患者を約6時間にわたる全人力搬送により安全に移送。

第5回日本サービス大賞 主な受賞一覧

内閣総理大臣賞	訪日観光ナビゲーションアプリ「Japan Travel by NAVITIME」 株式会社ナビタイムジャパン（東京都）
経済産業大臣賞	学校と企業を繋ぎ、生きた学びを無料で届ける「SENSEI よのなか学」の枠を超えて～顧客と創る機能性ファッション～ 株式会社ARROWS（東京都） 株式会社ワークマン（群馬県）
総務大臣賞	「ATM窓口」ATMがあらゆる手続き・認証の窓口 IoTの「つなぐ」を簡単にIoTプラットフォーム「SORACOM」 株式会社セブン銀行（東京都） 株式会社ソラコム（東京都）
厚生労働大臣賞	障害者手帳のDXで障害者の社会参加を図るライフプラットフォーム「ミライロID」 未診断や革新的新薬が届かない患者をゼロに「Medii Eコンサル」 株式会社ミライロ（大阪府） 株式会社Medii（東京都）

その他、13都道府県から全33件のサービスが受賞しました

医療機能継続を支えた 独自のレジリエンス・システム

いつものBCM 事業継続マネジメント：平時の備え

■教育と訓練

当院独自で作成し発行する「レッドブック」による全職員への周知とE-learning教材の内製化

■強靱なインフラ

2回線受電方式、飲用可能な井戸水と浄化装置の確保など、様々なものを冗長化

■施設設備会議

平時より毎週、現状と課題を共有し改善を重ねる

■夜間離発着ヘリポート

奥能登からの搬送を見据えた設備投資

もしものBCP 事業継続計画：有事の対応

■指揮命令系統の一本化

理事長方針による即時の「危機管理統括本部」設置

■チーム制の稼働

医療・介護・給食の3チーム体制で専門的に対応

■情報のDX化

配布済みiPhone（520台）とTeams、電子カルテによるリアルタイム情報共有

■クロノロジー記録

災害記録を詳細に残し、次の改善へ繋げる

免震構造建物である本館では設備・躯体に損傷がなく、医療機器の破損・什器の転倒や落下物などもなかったため、大きな地震の後でも通常と変わらない医療・介護を提供することができました。地域と医療を守り、国会でも全国の見本となる事例として「能登の奇跡」として紹介されました。



地震の揺れを記録する装置 ケガキ板

“能登の奇跡”

特に評価された3つのポイント

審査委員会より、以下の取り組みが「災害時医療介護サービスと呼ぶべき貴重な成功事例」として高く評価されました。

POINT 01

あらゆる災害を想定した
平時の備え

「いつものBCM/もしものBCP」を合言葉に、独自教材を用いた職員教育を徹底。さらに設備管理会社と連携した毎週の会議により、インフラの迅速な仮復旧とライフライン確保を実現しました。

POINT 02

発災時にレジリエンス力を
発揮したサービス提供体制

発災直後に危機管理統括本部を設置し、DX活用による情報一元化と指揮命令系統の一本化を図りました。また、被災者でもある職員の働く環境を迅速に整備することで、手厚いサービス提供を継続しました。

POINT 03

国土強靱化に資する
サービス

今回の対応実績は、今後起こりうる災害に対し、全国の医療・介護施設の災害対応モデルとして広く普及することが期待されています。

第1回日本サービス大賞 総務大臣賞を受賞した
『“恵寿式”地域包括ヘルスケアサービス』のご紹介

“恵寿式”地域包括ヘルスケアサービスとは

医療介護統合電子カルテにより、患者さん一人ひとりの情報をクラウド上で一元管理。これにより、地域住民の「医療・介護・福祉・保健」を切れ目なくサポートする“境のない”サービス提供を実現しました。全国でも珍しい先進的な取り組みとして、第1回日本サービス大賞 総務大臣賞を受賞しています。



全国からの 応援・ご支援への感謝を込めて

けいじゅ 復興の桜プロジェクト

クラウドファンディングを通じていただいた応援への感謝の気持ちを込めて企画しました。全国から寄せられた約5,000通の応援メッセージを桜の形にしたカードにし、それを集めて高さ5.3m、幅4.3mの巨大な「復興の桜」パネルとして恵寿総合病院内に展示。桜のもと、職員一同、復興への決意を新たにしました。

1月1日から3月31日までのクロノロジー（災害記録）

能登半島地震の被害状況と対応を、地域別・時系列で記録した災害記録を公開中です。ぜひご覧ください。



この知見を、日本全国の備えへ。

地震大国である日本において、私たちが経験した「成功」、直面した「困難」すべてを共有し、
未来の備えとして役立てていただくことこそが、被災地にある医療機関の使命だと考えています。



ワンコール 電話1本ですべてをつなぐ

けいじゅグループすべてのサービス（お問合せ・予約など）の窓口を「けいじゅサービスセンター」で受け付けています。



ワンストップ ヒューマンインターフェース

サービスセンターでは、自動音声ではなくスタッフが一人ひとり直接対応し、患者さんとすべてのサービスをつないでいます。



ワンファクト 医療介護統合電子カルテ

患者さんの情報をグループ全体で共有。制度の違いに関わらず、シームレスな医療・介護サービスを提供しています。



● Information ●



消防救急車（119番）を利用するほどではないが、症状がつらく、自力で病院へ行くのが難しい方を安全に恵寿総合病院まで搬送し、適切な処置に繋がります。



救命士が搬送中の
症状悪化を防止



病院との密な情報共有で
到着後スムーズに治療へ



※タクシーや自家用車で来院できる方や精神科・小児科・産婦人科に関する症状の方はご利用いただけません
※利用条件に合わない場合はほかの来院手段をご案内することがあります

サービス対象の方

- ✓ 七尾市・中能登町在住
- ✓ 症状がゆるやかに悪化している
- ✓ 在宅療養中で医療的サポートが必要
- ✓ 痛みが辛く、体をうごかせない

原則、サイレンは鳴らしません！



2026年2月より
17:00まで延長予定！

受付時間：平日9:00-15:30

＼ 詳細はこちら！ /



TEL.080-2969-7193

冬

のプレゼント キャンペーン

回答期間：2025. 12/1(月) - 2026. 3/31(火)

今回のプレゼントは Batel 保湿ローション

アンケート
回答者から抽選で

5

名様に
プレゼント

回答はこちら



けいじゅヘルスケアシステムとは

社会医療法人財団 董仙会と社会福祉法人 徳充会の総称です。
“先端医療から福祉まで「生きる」を応援します”をミッション
に掲げ、境目のない総合的なサービスを提供します。

Instagram



LINE



過去の広報誌



2026年1月

発行：けいじゅヘルスケアシステム
〒926-8605 石川県七尾市富岡町94番地
Tel：0767-52-3211（代表）